

IETF lager WGの状況

■本資料の目的

IETF lager WGの最新の状況を報告し、JGPのLGR- α (J-LGR- α 1) への影響が生じていないことを示す。

■IETF lager WGについて(振り返り)

IETF lager WGは、IDNのラベル生成ルール(Label Generation Rules; LGR)を記述するためのXML定義を規定することを目的としたWGで、2015年7月に設立された。実質的には、ICANN Root LGRで使用するXML定義をIETFで汎用に標準化するものである。

■IETF lager WGの状況

2016年2月にWGメンバーによる最終確認が行われ、いくつかのコメントを反映した後、XML定義が合意された。

2016年3月にIETF全体による最終確認が行われ、引き続きIESG(Internet Engineering Steering Group。IETFでの活動をリードし、RFC発行可否の最終判断を行う)での確認を経て、2016年5月25日にRFC化が承認された。

現在、RFC発行に向けた編集作業中である。

■J-LGR- α 1作成時(2015年3月)の仕様からの主な変更点

全体としては、J-LGR- α 1に影響を及ぼす変更は行われておらず、仕様の明確化や、Root LGRの各GPからのフィードバックなどを反映したものとなっている。

今後のCGP/KGPとの調整結果により、J-LGR- α 1を修正する際に影響が生じる可能性のある変更点を以下に示す。

- 推奨される処置の種類にvalidが追加されデフォルトになった(従来はactivatedがデフォルト)
 - J-LGR- α 1ではすべての文字にtypeを設定しているので基本的に影響はない
 - 今後のCJK・IP間調整により申請文字列のみを特別扱いする(allocatableでなくactivatedやvalidにする)場合や、allocatableとなる異体字ラベル数を減らす工夫をする場合などは、異体字のtypeの設定を検討する必要がある

以上